

編集委員会便り

水俣病に代表される公害は地域的問題、国内問題であった。それが、地球規模の環境問題へとひろがりを見せたのは、オゾン層消失というショッキングな事実が指摘されて以来である。1985年のウィーン条約でオゾン層保存のための国際協調がスタートし、その流れが1992年のブラジルの環境サミットへと続くこととなった。

フロンは、上記のウィーン条約で使用制限、製造の中止、そして代替物の開発へのスケジュールが定められて以来、自動車や家電など業界ごとに真剣な努力が為され、ほぼ実用化の目途がついたと言える状況にある。本特集では、規制のスケジュール、代替物開発の行程などの総論のあと、分野別の実用化の状況が明らか

かにされている。フロン問題はとかく代替物ばかりに関心が集まってしまうが、実際には代替物と十分な相溶性、高い潤滑能、混入水分などに安定性を有した潤滑剤を見い出すことが難問題となってきた。この問題も実際の開発担当者によって論じられている。フロンから全く離れた冷媒はないのかというのは誰もが抱く疑問であろう。この間に答えようとする研究状況が最後にまとめられている。本特集がフロン対策への理解を深め、実用化促進への一助となることを願っている。

吉田 邦夫

(東京大学工学系研究科化学システム工学専攻教授)

協賛行事ごあんない

「テクテキスタイル・アジア'96 (国際産業資材用繊維・複合材料・建築用繊維見本市&シンポジウム)」について

<主催> (株)大阪国際見本市委員会, メッセフランクフルトGmbH

<会期> 平成8年10月16日(水)~18日(金)

<会場> インテックス大阪
(大阪市住之江区南港北1-5-102)

<出展分野>

- ①文献・出版物・リサーチ ②繊維材料
③コンポジット ④テクノロジー ⑤工業用繊維
⑥電気製品・エネルギー産業用繊維 他9分野

<併催行事> 国際シンポジウム (国際会議ホール)

* 問い合わせ先 (株)大阪国際見本市委員会業務第2部

Tel 06-612-1042 Fax 06-612-8585